



中国がわかるシリーズ 28 海の中国とウイグル、トゥプトの興亡（上）

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

ウイグルは、唐の同盟者（実態的には、匈奴と[西]漢初期のように、唐が服属していました）として、唐の安寧を支える見返りに大量の絹を入手し（絹馬交易。なお絹は、突厥やウイグルの時代のシルクロードの国際通貨でもありました）、奢侈に流れて商業・定住民へと急速に変貌していきました。

チベットのトゥプトは、安史の乱に乗じて一時長安を攻略するなど、唐の支配から脱して西域の交易を手中に収め絶頂期を迎えました（ウイグル、トゥプトの 2 強時代。両者は、789～792 年に、北庭を巡って争い、ウイグルが勝利を収めました）。また、雲南では、南詔がトゥプトと同盟して、西南シルクロード（ミャンマー、インドへの道）を押さえたので、唐の領域は更に小さくなりました。唐、トゥプト、南詔の 3 国は、以降、合従連衡を繰り返すこととなります。

草原の道や陸のシルクロードが唐の覇権の喪失により不安定となったので、海のシルクロードの役割は更に大きくなりました。草原の道や陸のシルクロードによってユーラシアの西方と結びつき、繁栄を謳歌してきた長安や洛陽といった内陸都市は黄昏の時代を迎えつつあったのです。代わって、大運河によって海のシルクロードと結びついた開封が歴史の表舞台に登場するようになります。緩やかに、陸の中国から海の中国へと、時代は移りつつあったのです。

因みに、唐末に反乱を起こした黄巢は、激しく抵抗した広州市民を虐殺しましたが（879 年）、その中には、イスラーム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒、ゾロアスター教徒 12 万人が含まれていたと云われています（同時代のアラビア人の記録）。この蛮行により、アラビアのダウ船（柔構造の縫合船）は、来航しなくなり、その空白を中国のジャンク船が埋めることになりました。

玄宗は 713 年、開元の治を始めたその年に、広州に市舶司（税関）を設置していますが、8 世紀中頃から繁栄を始める広州の賑わいは、草原の道や陸のキャラバンに代わる、海のシルクロード、大量輸送時代の本格的な幕開けを告げるものでした（なお、広州が、海のシルクロードの起点に



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

なるにつれ、それまでの起点であった北ベトナムに対する中国の関心は薄れていきました)。草原の道は馬の、陸のキャラバンはラクダなどの輸送能力に限りがあるため、奴隷や高価な奢侈品の交易が中心とならざるを得ませんでした。これに対して海のシルクロードは、積載量が桁違いに大きく、安価な原材料や陶磁器など生活必需品の交易が可能になったのです。